研究課題　『江雲随筆』の研究資源化――近世初期日朝「境界」文書群――

研究経費　五〇万円（前年度よりの繰越分）

研究組織

　研究代表者　　　米谷均（早稲田大学）

　所内共同研究者　鶴田啓・須田牧子・岡本真

　所外共同研究者　村井章介（東京大学名誉教授）・佐伯弘次（九州大学名誉教授）・臼井和樹（宮内庁書陵部）

研究の概要

（１）課題の概要

　東京大学史料編纂所所蔵謄写本『江雲随筆』は、近世初期の日朝関係史に関わる文書を多数収める文集で、田中健夫編『善隣国宝記　新訂続善隣国宝記』（集英社、一九九五年）で『続善隣国宝記』の校合に用いられただけでなく、申請者・共同研究者も論文でしばしば利用してきた。しかし未だ全文翻刻はなされておらず、史料的性格・成立・諸本系統といった基礎的事項も本格的に検討されてこなかった。本共同研究では、①諸本および関連諸史料の調査、②調査結果をふまえた本文校訂・所収文書の年代推定・人名比定などを行い、③『江雲随筆』の全文翻刻を行うものである。

（２）研究の成果

　二〇一九年度の活動で、史料編纂所謄写本の全文翻刻、および東京・京都での諸本の調査・撮影を行った結果、諸本間で異同が多く確認され、史料編纂所謄写本を底本とする場合でも校訂作業が必要であることが分かった。調査結果をふまえた本文校訂・所収文書の年代推定・人名比定などを進め、『江雲随筆』の翻刻全文を公開することで、今後の対外関係史研究、とりわけ近世日朝関係史の実態解明に資する史料を提供することができると考える。